

# 家族で英語を学ぼう!



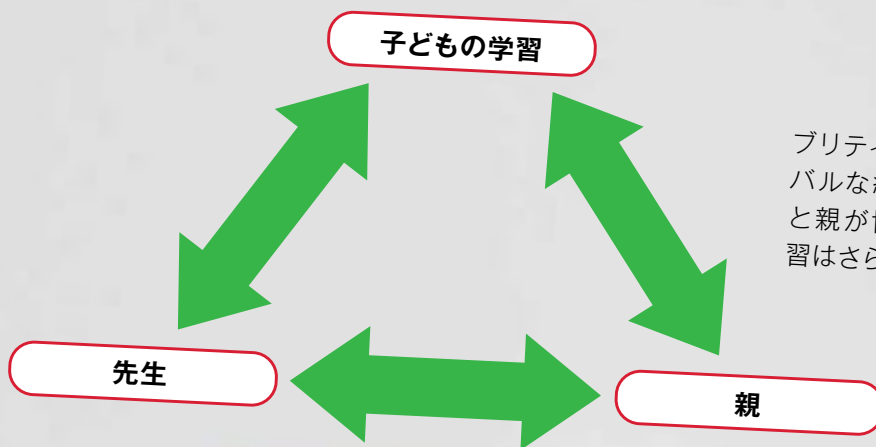
童謡と詩の読み聞かせで  
英語を学ぶ

## はじめに

親が子どもの学習を見るようになると、学習姿勢やスピードにプラスの効果が生まれます。教室の外で親が子どもをサポートすれば、教室の中で子どもはめざましい上達をみせてくれるのです。

英国の学校・児童担当閣外相ジム・ナイトは、「初等教育年齢の子どもたちの学習には、親が先生の6倍もの影響力をもっている」と述べました。親が子どもを励まし、英語を使うことへの自信をつけさせるための簡単な方法がいくつかあります。

親たちをサポートするため、ブリティッシュ・カウンシルでは教育の専門家が「英語を学ぶ子どもたち」シリーズの新品とサービスを開発しました。子どもとともに、これらの商品を楽しんで活用していただきたいと願っています。子どもと一緒に学ぶのはとても楽しいですよ！



ブリティッシュ・カウンシルのグローバルな経験から言えることは、先生と親が協力すれば、子どもたちの学習はさらに向上するということです。





## 童謡「rhyme」を用いる

「rhyme (ライム)」は韻を踏んだ短い詩を指し、イギリスでは伝統的に子どもたちが歌って遊ぶものです。全く同じではありませんが、日本語の「童謡」に大変近いものです。多くの文化において、こうした素朴な童謡が古くから存在すると考えられています。幼い子どもたちの多くは、話し始めたその時から、自然に「音」を使って遊んだりさまざまなことを試したりしますが、それはやがて、童謡を楽しむことへとつながっていきます。幼い子どもたちには、童謡に出てくる音をまね、その言葉づかいかや特別なリズムを覚えてしまう技と意欲が、生まれながらに備わっているようです。

幼い子どもたちにとって、童謡に出てくる独特の言い回しを覚え、繰り返すことは、一種の遊びです。子どもたちは無意識のうちに、苦もなく童謡を覚えてしまいます。大人とは違って、暗記は骨の折れる作業ではないのです。

童謡の短い言い回しを口に出して遊びながら、子どもたちは英語という言語のしくみを探ります。言葉がどのように機能するかを発見し、英語が持つ44の音と26文字のアルファベットとの関係を理解するようになります。ここで理解したことは、のちに、単語を成り立たせている音を「解読して」理解しはじめるようになったとき役立ちます。幼い時期に童謡を用いてこのような言葉遊びをすることの大切さは、過小評価されていると言ってよいでしょう。

童謡と子ども向けの簡単な詩には違いがあります。一般的な童謡の特徴は、短く、韻を踏むフレーズを心地よいメロディーで声に出す点と、魅力的でまねしやすいリズムで音や単語を繰り返す点です。昔から伝わる有名な童謡は、マザーグース童謡や伝承童謡などと分類されることがあります。「トゥインクル・トゥインクル・リトル・スター」や「ハンプティ・ダンパティ」といった多くの童謡は、英国文化の重要な要素と考えられています。







一方、「子ども向けの詩」は通常、言葉の遊びというよりも、言葉の意味が重視され、子どもたちは、ふだんの環境からは想像もできないような感情、想像力、そして新しい考え方を詩から発見することができます。子ども向けの詩には、古典的なものも現代的なものもあります。幼いころは童謡を楽しむ子どもたちも、成長すればごく自然に詩を楽しむようになるでしょう。子ども向けの詩は通常、童謡ほど有名ではなく、伝承童謡のように世代を越えて受け継がれることもあまり多くありません。

## なぜ童謡なのか

童謡はどこでも使える遊び道具です。いつでもどんな場所でも、親子で童謡を口ずさめばムードを変えたり、楽しく遊んだりすることができるのです。童謡があれば、おもちゃも、小道具も、本も必要ありません。なぜなら、言葉を紡ぐ声が遊びを盛り上げてくれるからです。童謡には身振りが付いたものもあり、内容を理解し、記憶する助けになります。

幼い子どもたちの注意力は長く続かないものですが、童謡は短く完結するのでぴったりです。まるで小さな物語のように始まりと終わりがあり、間にはそれぞれ独特の内容が詰まっています。ひとたびこの流れを理解すると、子どもたちは自信を持ちます。その場の雰囲気に合わせてうたうスピードが変わることはあっても、言葉自体は変わらないことがわかるからです。魅力的で、遊び心に満ちた言い回し（テレビのコマーシャル・ソングのようなものです）と短いフレーズは、簡単ですぐ覚えられます。

幼い子どもたちはすぐに英語でコミュニケーションをとりたがるものです。そして言いたいことが言えないと苛立ちます。童謡なら、初回のレッスンから「たくさんの英語を、大人とまったく同じように速く」話すことができるのです。英語のゲームが楽しかったからと言って、子どもたちが深く満足してやる気になるわけではなりません。童謡を覚える、といった決められた課題を辛抱強くやり遂げてこそ、さらに意欲もわいてくるのです。



英語を話すための学習がつらいと感じる子どもたちもいるかもしれません。ところが、童謡を覚えるという課題が子どもたちを励まし、意欲を持たせるきっかけになることもあります。特に英語学習の初期の段階で、子どもたちが自分の思うように進歩を感じられていない場合などです。

恥ずかしがって英語を話したがらない幼い子どもたちも、励ましてくれる大人と一緒に童謡をうたうと、話し始めることがよくあります。お決まりの楽しいフレーズを一緒にうたううちに、どんどんと自信が付き、気がつけば、短い童謡ならそのほとんどを自分で口に出すことができるようになっているのです。

## 童謡を選ぶ

童謡の数を増やしていくことが大切です。そのためには、童謡の長さや子どもの興味、学習への意欲に合わせ、親が毎週新しい童謡を1つか2つ用意しておかなければなりません。子どもたちには新しい童謡をすんなりと吸収できる日があるので、そのような気分を見逃さないことが重要です。

童謡は探す際は、次のようなものを参考にしましょう。

- **童謡の物語絵本** - 1篇の童謡が1冊の完結した絵本になっています。「イン・ザ・ダーク・ダーク・ウッド」ジェシカ・ソーハミ作（フランスス・リンカーン）など。
- **童謡の作品集** - 童謡の選集に本文の理解を助ける挿絵が少し入った本。「ナンバー・ライムズ・トゥー・セイ・アンド・プレイ！」オパール・ダン／アドリアーノ・ゴン作（フランスス・リンカーン／マザー・グース・スターリング出版）など。
- **古典的な童謡** - 「ザ・レイディー・バード・ブック・オブ・ナーサリー・ライムズーハンプティ・ダンプティ」





# F



- **家族** - 家族がすでに知っている童謡を覚えるのもよいアイデアです。皆で一緒に楽しめますし、子どもたちに参加する意欲が湧くからです。

童謡を選ぶ際、親は自分たち自身が楽しめる童謡を探さなければなりません。また、次のような点を念頭に置いて選ぶようにします。

- 子どもたちの英語上達度
- 子どもたちの興味範囲と性別による違い。たとえば、男の子は、身振りの付いた次の童謡を好みます

Jeremiah, blow the fire,  
Puff, puff, puff.  
First you blow it gently . . .  
Then you blow it rough.  
ジェレマイア 火を吹いてプッフ プッフ  
さいしよはやさしく つぎにははげしく

- 童謡に出てくる言葉を日常会話に取り入れられること
- 他の家族が知っている童謡であること(できれば)
- 家族の名前をあてはめてうたえるような、人名の出でくる童謡であること。たとえば:

Diddle, diddle dumpling.  
My son John,  
Went to bed  
With his trousers on.  
ころころふとつちよ ジョン坊や  
スポンははいたまま ベッドの中へ

- 家庭や日常生活でうたえるような童謡であること。たとえば:

I scream,  
You scream  
We all scream for ice-cream  
わたしが ちょうだい あなたが ちょうだい  
みんなが ちょうだい アイスクリーム ちょうだい  
What would you like?  
Chocolate, lemon, vanilla or . . .  
One is for you/And one's for me.  
どれが好き? チョコかレモンかそれともバニラ  
ひとつはあなた もうひとつはわたし

さまざまなニーズにあった童謡をいくつか紹介します。

### あいさつの童謡

Hi Mary!  
How are you?  
Fine, thanks.  
What about you?  
こんにちは メアリー ごきげんいかが?  
ええ ありがとう あなたはいかが?

### 体を動かす童謡と指遊び童謡

10 fingers,  
10 toes,  
2 eyes  
And a round nose.  
手のゆび 10本 足のゆび 10本  
目が2つ そしてまいるいお鼻

### 童謡ゲーム

Acker Backer, Soda Cracker, Acker Backer Boo!  
Acker Backer, Soda Cracker  
Out goes YOM!

アッカ バッカ ソーダクラッカ アッカ バッカ フー!  
アッカ バッカ ソーダクラッカ そとへ でののは あんた!

One potato, two potatoes, three potatoes, four,  
Five potatoes, six potatoes, seven potatoes, more?

One banana, two bananas, three bananas, four. . .

おいもが1つ おいもが2つ おいもが3つ おつきは4つ  
おいもが5つ おいもが6つ おいもが7つ もっとあるよ  
バナナが1本 バナナが2本 バナナが3本 おつきは4本...





## テーマのある童謡

Two big apples  
Under a tree.  
One is for you  
And one's for me.

大きなりんごがふたつ 木の下に  
ひとつはあなた もうひとつはわたし

Rain, rain, go away!  
All the children want to play.  
Rain, rain, go away!  
Come again another day

あめあめ いとくれ こどもがみんな あそびたい  
あめあめ いとくれ ほかのひに いらっしやい

## 古典的な童謡/マザーグース童謡

Twinkle, twinkle, little star  
How I wonder what you are  
Up above the world so high  
Like a diamond in the sky  
Twinkle, twinkle, little star  
How I wonder what you are.

きらきらちいさなおほしさま あなたってほんとにふしぎだわ  
このよのうえにそんなにたかく そらにかがやくダイヤのように  
きらきらちいさなおほしさま あなたってほんとにふしぎだわ

## 童謡のうたい方

親が声、目、顔の表情やボディ・ランゲージをうまく使うほど、童謡に生き生きと命が吹き込まれます。(ブリティッシュ・カウンシルのブックレット「子どもと英語で話す」をご覧ください。)

'Two big apples' is taken from *Number rhymes to say and play* by Opal Dunn and illustrated by Adriano Gon, published by Frances Lincoln Ltd, copyright ©2003.

[www.britishcouncil.org/parents](http://www.britishcouncil.org/parents)





子どもの関心を引くためには、声の力で子どもを誘い、新しい童謡とのドラマチックな出会いを演出する必要があります。大人より鋭い耳を持つ子どもたちは、童謡に慣れてくると大人の声色から感情を読み取ることができるようになるため、身振りを使って理解を促す必要はなくなっていきます。子どもが自分からその身振りをするようになれば、親は身振りをやめてよいのです。

古典的な童謡の多くは、読み上げるだけでもよいし、メロディーを付けて歌うこともできます。最初のうちは、子どもの学習課題が「言葉を覚えること」だけで済むように、童謡を読み上げるだけのほうがよいでしょう。言葉と同時にメロディーも覚えなくてはならないとなると、二つのことを一度に身につけなくてはならず、子どもにとっては大変な作業です。

先に童謡を歌うことを学んでしまうと、歌い言葉を話し言葉に変えるのに苦労する子どももいます。童謡に出てきたフレーズを会話で使うとき、子どもたちが「言葉を歌ってしまふ」ことになります。

## 新しい童謡を理解する

童謡は、決まったフレーズ、または韻を踏むように組み立てられた言葉のまとまりでできています。子どもたちはこのようなお決まりのフレーズを覚えるとき、“the”や“for”といった小さな単語にはほとんど気を留めません。それらの語をひとつの独立した単語としてではなく、言葉のまとまりの一部として聞きとっているからです（例：“one’s for you”の for など）。





多くの童謡の本には、理解を助ける挿絵がついています。挿絵がない場合は、親がちょっとしたスケッチを描くか、おもちゃや実際にある物を見せると、意味が理解しやすくなります。単語を訳すときは必ず、ささやき声で1回だけにします。その後にもう一度英語で単語を言ってあげるようにしましょう。

## 新しい童謡を教える

新しい童謡を教えるとき、親は幼児語(ブリティッシュ・カウンシルのブックレット「子供と英語で話す」をご覧ください)を使う必要があります。短い童謡に出てくる言葉はたいてい、真似したり覚えたりしやすいものです。子どもがその童謡を覚えてしまえば、幼児語を使う必要はなくなります。

学習内容を定着させるには、学んだことをおさらいする時間が必要です。子どもたちは自分なりの方法と時間をかけて単語と音と意味とを理解し、比較します。特に、新しい童謡を学んでいる最初の段階では、子どもたちを急かし、大人と同じスピードで取り組ませようとしてはいけません。繰り返すことは、大人には退屈に思えるかもしれませんが、子どもにとっては大切なことです。繰り返しによって、無意識のうちに言葉や音を復習できるからです。さらに、自分がすでに理解したことを確認できるため、子どもに自信が生まれるのです。

身振り、絵、または実際にある物で意味を補いながら、ゆっくりと、大げさに、童謡をうたってみましょう。とくに決まった身振りが付いていないときは、単純な身振りを考えます。身体的な動きを取り入れると記憶しやすくなりますし、動くことで気分も良くなるでしょう。重要な言葉や韻を踏む言葉を強調し、必要であれば、ささやき声で訳しましょう。





子どもが新しい童謡を覚えると、次は大人と1行ずつ交代でうたうようにしましょう。交代でうたうことによって、重要なスキルが習得できるようになります。子どもたちに、相手がうたっているのを聴くときの注意深さと自分がうたい始める際の決断力がつくようになります。

子どもたちは童謡のほとんどを暗記していても、まだ自分ひとりでうたうことはできないでしょう。

## 空いた時間の童謡レッスン

家庭で耳にする童謡の数が多いほど、そこに出てくる簡単で日常的な言葉が、より早く子どもたちの生活や話す能力の一部になります。自分が知っている童謡の数を増やしていくことは大切です。知っている童謡の数が多いほど、子どもたちはよりたくさんの童謡を知りたいと思うからです。童謡をうたうのは楽しいですよ！

スーパーマーケットで列に並ぶ間や長い旅の途中など、空いた時間に、親子で一つか二つ、童謡をうたってみるのもよいでしょう。このような童謡レッスンは親から働きかけて始めねばなりません。子どもたちが自分から言い出すこともあるでしょう。子どもたちは童謡を何度も繰り返す必要があります。2度目の繰り返しで自分のパフォーマンスを振り返り、改善することができます。子どもたちは常に発音の誤りを直していますが、急いでいたり練習するチャンスがなかったりすると改めることができません。したがって、新しい童謡を取り上げるのは、通常の童謡レッスンの際にしておいたほうがよいでしょう。







## 童謡の時間

「童謡の時間」を設け、次のような童謡をうたいます。

- お気に入りの童謡
- 最近学習した童謡
- 最新の童謡

まずは1つか2つ、お気に入りの童謡から始めるのがよいでしょう。そうすることで、子どもたちが日本語から頭を切り替えやすくなり、英語を聞いたり使ったりすることに慣れるからです。お気に入りの童謡を繰り返す回数は、子どもの気分によって決めます。2度目に繰り返すときは、子どもと一緒にうたうようにし、3度目は、子どもの気がすすむようであれば、童謡の全部、または一部をひとりであたわせましょう。

単独のレッスンとして「童謡の時間」を設けるのか、英語のレッスン前のウォーミングアップとするのかによって、「童謡の時間」の長さを決めましょう（プリティッシュ・カウンシルのブックレット「子どもと英語で話す」をご覧ください）。あらかじめプログラムを作って、童謡の1行目を書き出しておくのも楽しいでしょう。子どもたちが日本語を読めるなら、プログラムにそつうたえます。のちに童謡をたくさんマスターしたときに、子どもたち自身がプログラムを組むようにすることもできます。

## 童謡の発表会

誰かの誕生日などの特別な機会に、童謡の発表会を計画して子どもたちに童謡を2つか3つうたわせるのもよいでしょう。子どもたちは、自分のスキルを披露できるのを喜びますし、ほめられることで大いにやる気がわくものです。発表会に向けた準備は大切です。子どもたちが練習を続け、発音やパフォーマンスを向上させていく立派な理由ができるからです。



親と何人かの子どもたちが交代で、あるいは一緒にうたうときは、コーラス形式にしても楽しいでしょう。恥ずかしがり屋の子どもは、ひとりでうたう勇気が出るまで、皆と一緒にコーラスに参加すればよいのです。

## 録音

童謡を録音できる機能の付いたMP3プレーヤーがあれば、さまざまなことができます。たとえば：

- 録音した内容を聴く
- 録音する
- 録音した内容を再生して、改善できる箇所を見つける
- 練習して上達した2回目を録音する

子どもたちは自分の「間違い」に厳しいものです。自分の発音に満足がいくまで何度でも、もう1度録音したいという子どもがほとんどです。

## 童謡の本をつくる

ローマ字のアルファベットと26文字の音をすでに知っている子どもたちはたいがい、童謡の読み方だけでなく書き方まで熱心に知ろうとします。有名で簡単な童謡をコピーしておいて、最初と一緒に読んで、そのあと子どもたちに、単語をひとつひとつ順番に指さしながら声に出して言わせてみましょう（セルフ・ディクテーション）。子どもたちは、簡単な単語なら英語で読めることにすぐに気づきます。童謡のプリント1枚1枚に自由に模様や縁取りなどを書き込ませましょう。書きこみながら、子どもたちは童謡の本文をおさらいできます。





何枚か完成したら、それを童謡の本にします。英語でどのくらい書けるようになっていくにもよりますが、目次や表紙は自分たちで作らせます。

その次に本を作るときには、童謡そのものも自分で手書きしたいという子どももいるでしょう。誕生日や記念日のカードも手作りしたいと言うかもしれません。

このような手作りの本がきっかけとなって、子どもたちが自作の童謡を書いてみたいと言い出すこともあります。なかには、すでに知っている童謡を作り変えたり、他の童謡から抜き出した1節を元の形のまま、あるいはほんの少しだけ変えて用いたりしてオリジナルの童謡を作り始める子どもも出てきます。ぜひとも励ましてやりましょう。これは一種の作文なのですから。

絵本であれば、気の向くまま童謡を拾い読みすることもできます。まずは物語絵本から始めましょう。挿絵がたくさん入っていて言葉を理解しやすいので、子どもたちにもセルフ・ディクテーションでき、物語を「読める」ようになるからです。作品集では、子どもたちがまだ耳にしたことがない童謡もたくさん収められているので、初心者である彼らのやる気を削いでしまうかもしれません。

## 童謡を読む

すでに暗記している簡単な童謡を「読む」ことは、すらすらと読解できるようになるために重要な段階であることが、研究によってわかっています。テキストに出てくる単語を指差しながら、知っている童謡を声に出して言わせると、子どもたちは興奮します。自分にも英語で書かれたものが読めるのだと気づくからです。

Go to bed late,  
Stay very small.  
Go to bed early,  
Grow very tall.

よふかししたら ちいさいままよ  
はやくねむれば おおきくなるよ



この段階で子どもたちに読めるのは、童謡の決まったフレーズに出てくる、すでに耳にしたことがある言葉だけです。「読んで」いくうちに、繰り返される単語の形を認識できるようになり、やがて、自分で「読める」ボキャブラリーが増えていきます。ほぼ同時に、子どもたちは、認識できる単語の音を分析しはじめます（プリティッシュ・カウンシルのブックレット「絵本の読み聞かせで英語を学ぶ」をご覧ください）。“four”、“door”、“more”、“floor”、“saw”などの韻を踏む単語を集めるゲームは子どもたちも大好きで、自信をもたせるのにおすすめです。

親や先生たちは気づかないこともありますが、子どもたちはたくさんの童謡に親しむ中で、読解を学ぶ際に重要な「読む」ことを自然と行っているのです。

童謡を読むことができる子どもたちは、そのうち簡単な詩も読めるようになります。童謡や詩を覚える能力は、言語の習得同様、だいたい8歳までに指導すれば、生涯のスキルになるようです。





[www.britishcouncil.org/parents](http://www.britishcouncil.org/parents)

このブックレット・シリーズは親たちをサポートするためにブリティッシュ・カウンシルより委託製作されたものです。

- 幼い子どもたちのための異言語としての英語学習法
- 子どもと英語で話す
- 絵本を読み聞かせて英語を学ぶ
- 童謡と詩の読み聞かせて英語を学ぶ

Opal Dunn 著 (作家・教育コンサルタント/英国)

© British Council 2008

ブリティッシュ・カウンシルは英国の公的な国際文化交流機関です。英国では公益団体（非営利組織）として登録されています。

公益団体番号：209131（イングランド、ウェールズ）、SC037733（スコットランド）